取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

ZEST

車いす仕様車

このたびはHonda車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。
この取扱説明書は、ZEST 車いす仕様車に
装備された専用機構の取り扱いについてのみ説明してあります。
その他の内容については ZEST 取扱説明書をご覧ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、
異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

もくじ

各部の名称……3

安全ドライブのための必読ポイント……4

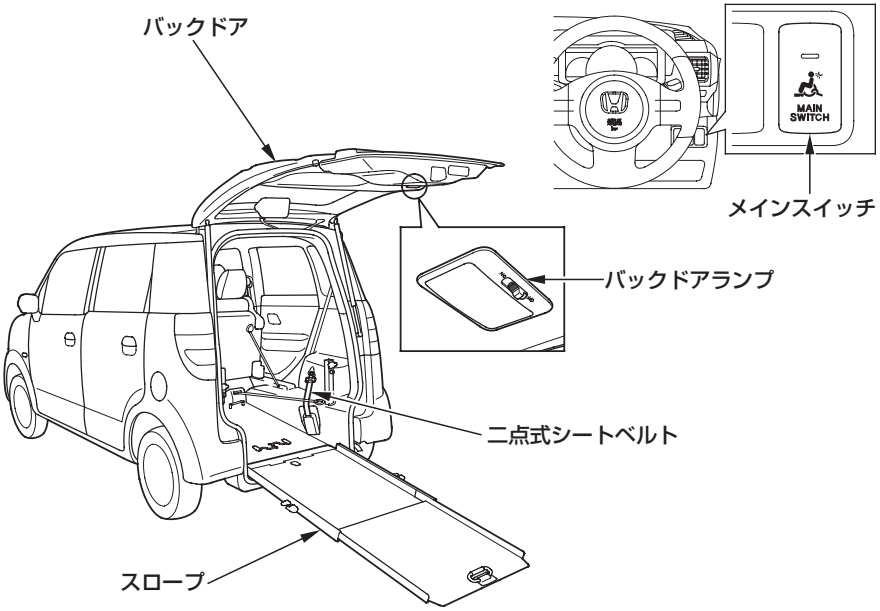
装備の使いかた
バックドア……8
バックドアランプ……9
燃料タンクの容量……10
リヤシート……10
二点式シートベルト……23
車いすの乗せかた、降ろしかた……26

点検整備について
点検整備方式……37
日常点検……38

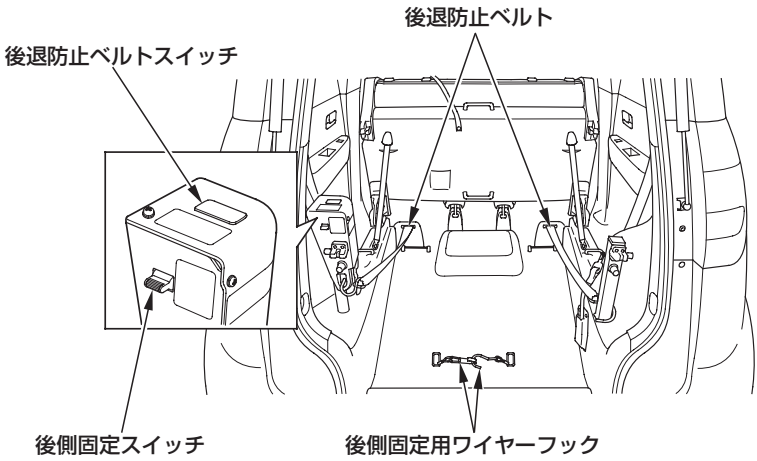
万一のとき
工具、タイヤパンク応急修理キット……39
工具の種類……40
動けなくなったとき……41
ジャッキの取り扱い……41
タイヤパンク応急修理キット……42
バックドアランプが点灯しないとき、
　後側固定用ワイヤーフック、
　　後退防止ベルトが作動しないとき……49
バックドアの解錠ができないとき……54

サービスデータ
サービスデータ……55
乗車可能な車いすのサイズ……56

各部の名称



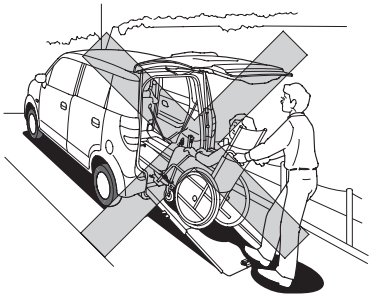
車いす固定装置まわり



安全ドライブのための必読ポイント

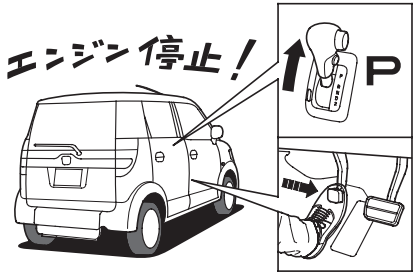
坂道での車いすの乗降や固定操作はしない。

- 車いすの乗降や固定操作は必ず平坦な場所で行ってください。
  坂道では、車や車いすが不安定になり、転倒や落下などにより思わぬけがをすることがあります。



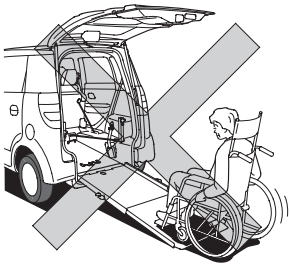
車いすの乗降や固定操作をするときは、エンジンを止めて。

- 車いすの乗降や固定操作をするときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーを[P]に入れ、必ずエンジンを止めましょう。
  不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。



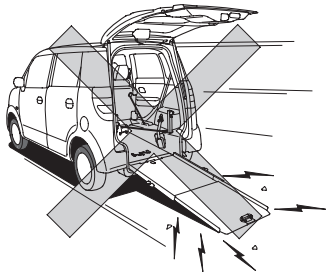
車いすの乗降や固定操作は介護する人が行う。

- 車いすの乗降や固定操作は、道路状況に注意し、介護する人が行ってください。
  車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うと、スロープから落ちたり体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。



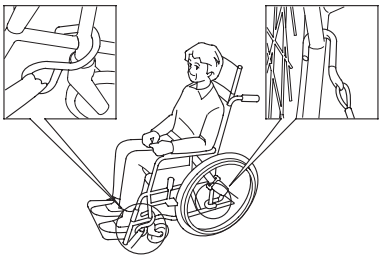
スロープを降ろしたままでの車の移動はしない。

- スロープや車両が破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



車いすは確実に固定。

- 走行中に車いすが動いて倒れたりしてけがをするおそれがあります。

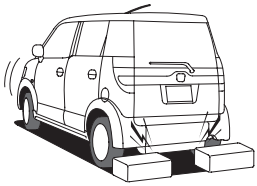


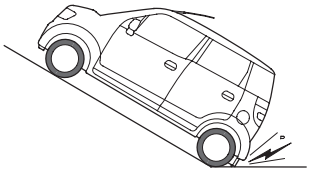
走行するときはシートベルトを必ず着用。

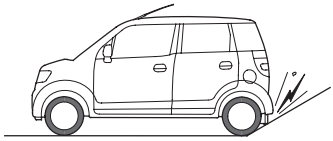
- 車いすに座っている人にも必ずシートベルトを着用させてください。

路面の段差などに注意。

- この車は、ベース車に対し最低地上高が低く設計されているので、次のような場合にマフラーや床下を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。
  - ・車止めのある場所への駐車
  - ・路肩に沿っての駐車
  - ・路肩等段差のある場所への乗り降り
  - ・平坦路から上り坂および下り坂から平坦路への乗り入れ
  - ・凹凸やわだちのある道路の走行
  - ・くぼみ(穴)のある箇所の通過



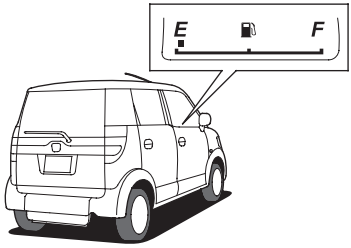




燃料切れに注意。

- この車は、ベース車に対し燃料タンクの容量が少なく設計されているので、燃料の残量に注意してください。

燃料タンクの容量　→10ページ



装備の使いかた

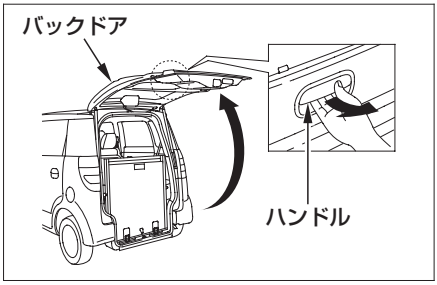
バックドア

●施錠・解錠

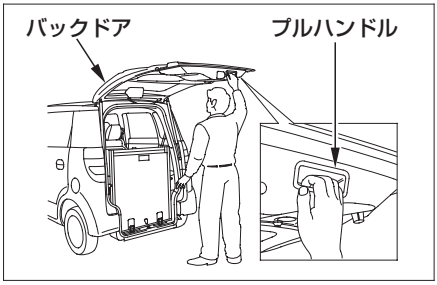
テールゲート　→ZEST取扱説明書

●開閉

開けるときは、解錠してからハンドルを引き、静かに引き上げて開けます。
いっぱいに開いてお使いください。

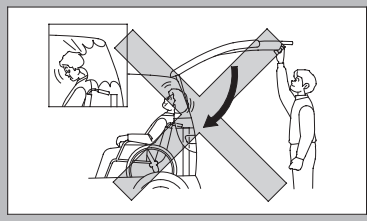


閉めるときはプルハンドルを利用してください。



⚠警告

●バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意してください。



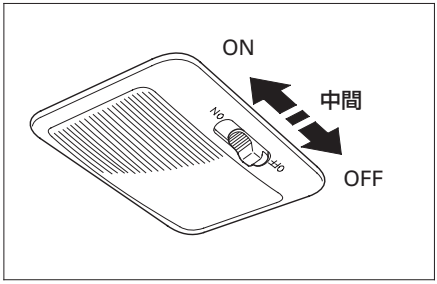
⚠注意

●バックドアを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
●エンジンをかけた状態で排気管の後方に立たないでください。
やけどなど思わぬけがをすることがあります。
●車いす乗車スペース内には確実に固定された車いすに座った人以外の人を乗せないでください。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知 識

●バックドアを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

バックドアランプ



スイッチが“ON”または“中間”の位置

次の条件がそろったときに点灯します。

・セレクトレバーがPのとき。
・エンジンスイッチが“Ⅰ”のとき。
・メインスイッチが“ON”のとき。

スイッチが“OFF”の位置

セレクトレバーやエンジンスイッチの位置、メインスイッチの“ON”、“OFF”に関係なく消灯します。

燃料タンクの容量

タンク容量:　30ℓ

知　識

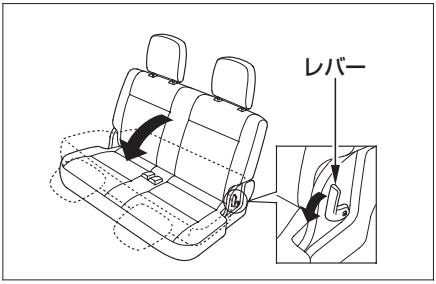
- この車はベース車に対し燃料タンクの容量が少なく設計されています。
  燃料の残量に気をつけてください。

リヤシート

タイプ別装備

●背もたれの倒しかた

レバーを前に倒して、背もたれを前に倒します。

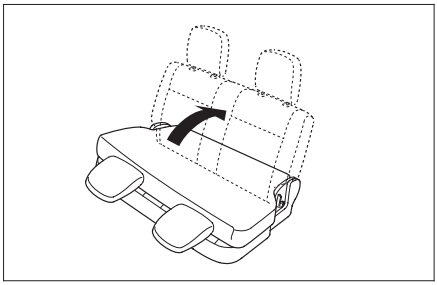


知　識

- フロントシートの位置や角度によっては、リヤシートのピローがフロントシートに干渉して背もたれを前に倒せないことがあります。
  フロントシートの前後位置調節
  フロントシートの背もたれの調節
  →ZEST取扱説明書

●背もたれの起こしかた

背もたれを起こして固定します。



⚠注意

- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 倒した背もたれの上には、人を乗せて走行しないでください。
  また、車いす乗車スペース内には確実に固定された車いすに座った人以外の人を乗せて走行しないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知 識

- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- リヤシートにはISO FIXテザータイプのチャイルドシートを取り付けることはできません。
  チャイルドシートの取り付けの詳細に関してはZEST取扱説明書をご覧ください。

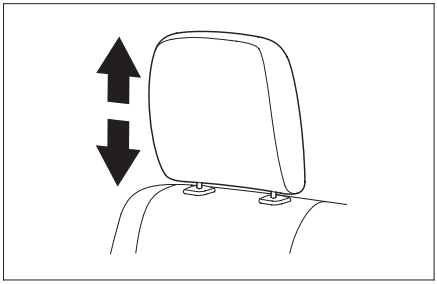
●ピローの調節

走行する前に耳とピローの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。

背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

ピローを上下に動かして調節します。



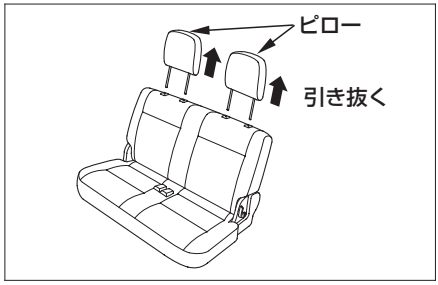
●リヤシートのはね上げかた

①フロントシートを前方へ動かします。

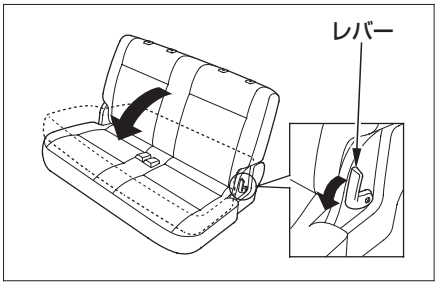
フロントシートの前後位置調節

→ZEST取扱説明書

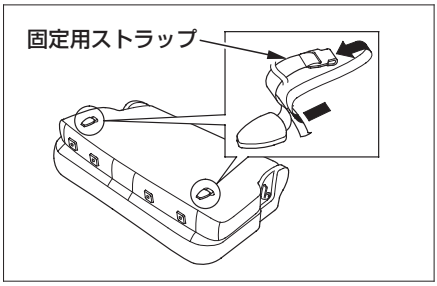
②リヤシートのピローを取り外します。



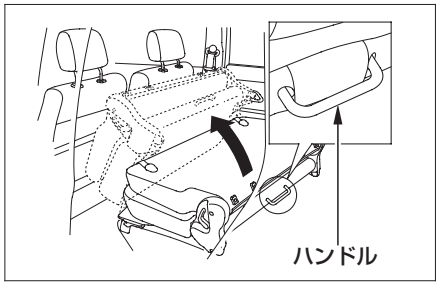
③レバーを前に倒して、背もたれを前に倒します。



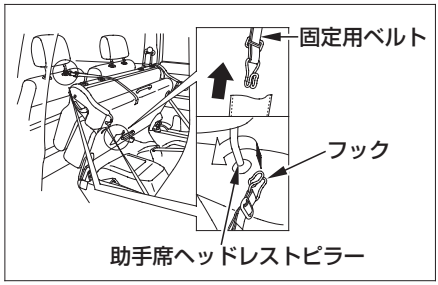
④背もたれ後側の左右 2 カ所のポケットに入っている固定用ストラップを取り出しておきます。



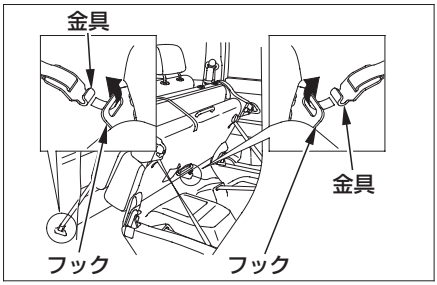
⑤ハンドルを引き上げながら、シート全体を前へはね上げます。



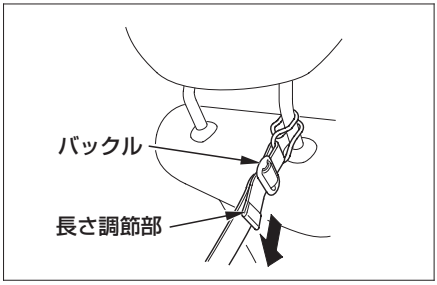
⑥シートが倒れないように手で支えながら、座面裏側の固定用ベルトを取り出し、助手席のヘッドレストピラーにフックを掛けます。



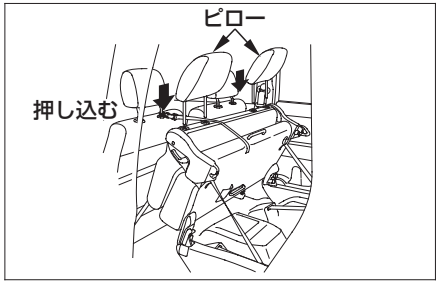
⑦固定用ストラップがねじれないようにし、フロントシート後側の左右 2 カ所にあるフックにストラップの金具を外側から掛けます。



⑧固定用ベルトのバックルを持ち、長さ調節部を引いてベルトのたるみを取ります。



⑨はね上げたシートの上部にある穴にピローを後ろ向きに取り付けます。



知 識

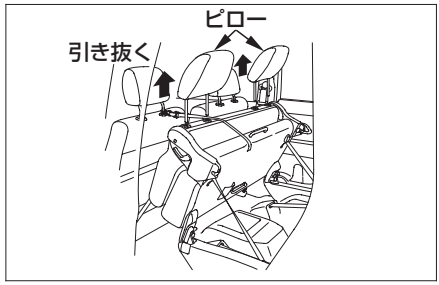
- 固定用ストラップは背もたれ後側に 2 本、シート座面裏側に 2 本あります。リヤシートをはね上げたときは必ず 4 カ所とも金具をフックに確実にかけて固定してください。すべて固定されていないと、ブレーキをかけたときなどに、シートを支えきれないことがあります。

  シート座面裏側のストラップの掛けかた →21ページ

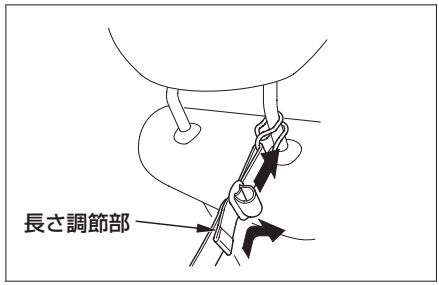
- リヤシートをはね上げた状態でご使用の場合は、フロントシートのスライド量およびリクライニング量が制限されます。

●元に戻すとき

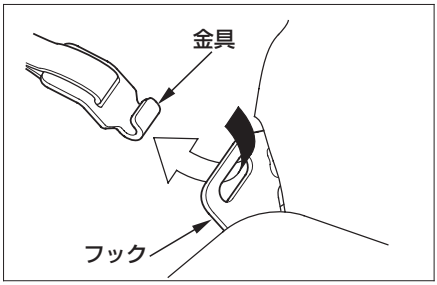
①ピローを取り外します。



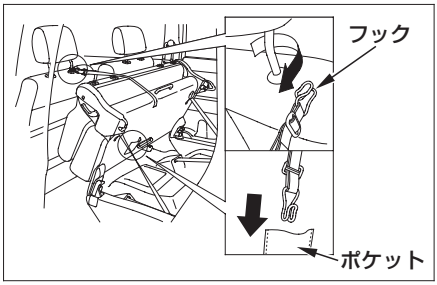
②固定用ベルトの長さ調節部をたるませ、ベルトを引いて固定用ベルトをゆるめます。



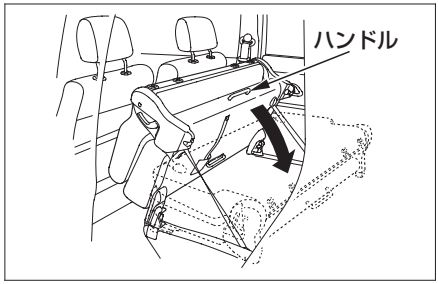
③左右の固定用ストラップの金具をフックから外します。



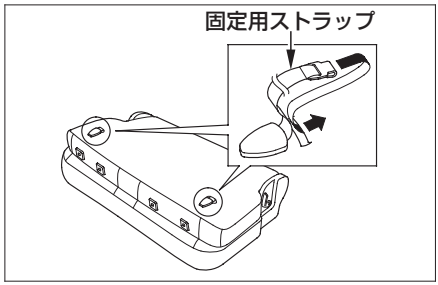
④シートが倒れないように手で支えながら、固定用ベルトのフックをヘッドレストピラーから外し、ポケットに収納します。



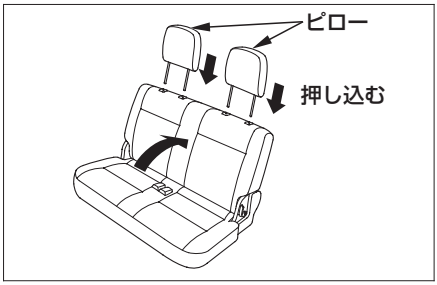
⑤ハンドルを持ってゆっくりとシートを降ろし、“カチッ”と音がするまで押さえて固定します。



⑥固定用ストラップをポケットに収納します。



⑦背もたれを起こし、ピローを取り付けます。



⚠注意

- 操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

- はね上げたときや元に戻したときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

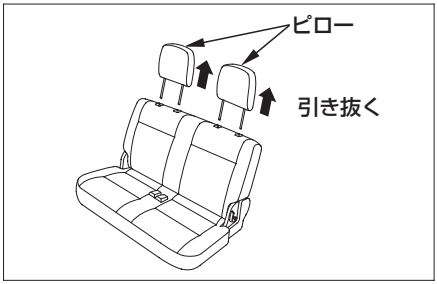
●リヤシートの取り外し

①フロントシートを前方へ動かします。

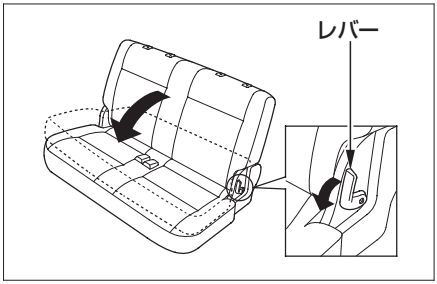
フロントシートの前後位置調節

→ZEST取扱説明書

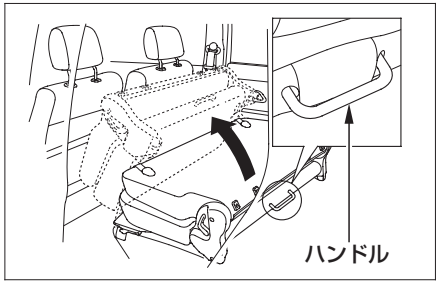
②リヤシートのピローを取り外します。



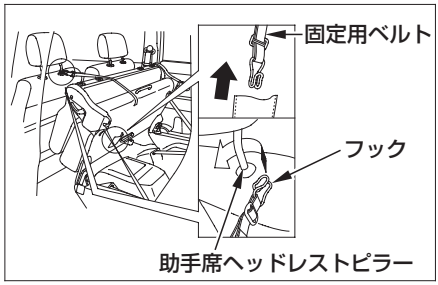
③レバーを前に倒して、背もたれを前に倒します。



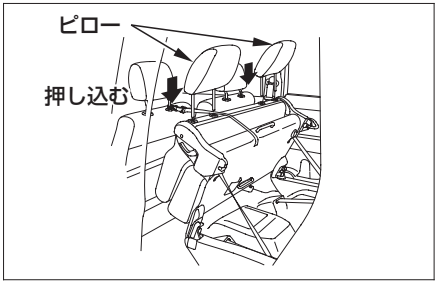
④ハンドルを引き上げながら、シート全体を前へはね上げます。



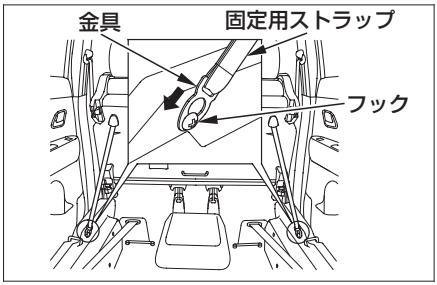
⑤シートが倒れないように手で支えながら、座面裏側の固定用ベルトを取り出し、助手席のヘッドレストピラーにフックを掛けます。



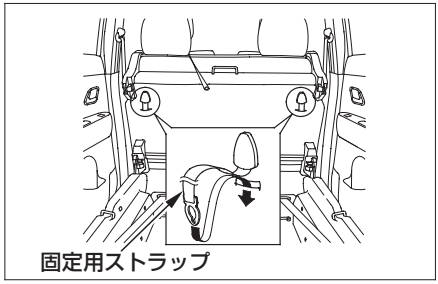
⑥はね上げたシートの上部にある穴にピローを後ろ向きに取り付けます。



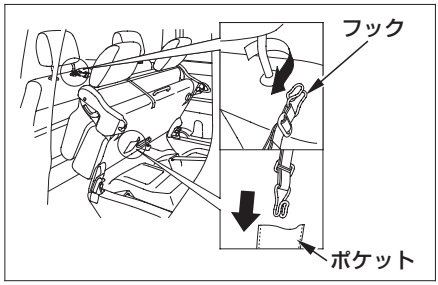
⑦シート座面裏側にある固定用ストラップの金具をスライドさせて、フックから外します。



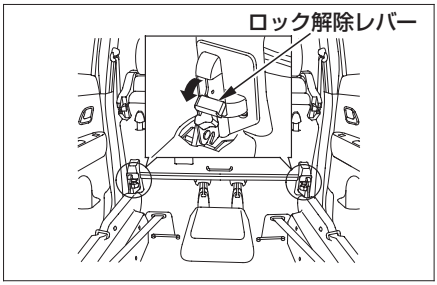
⑧固定用ストラップをポケットに収納します。



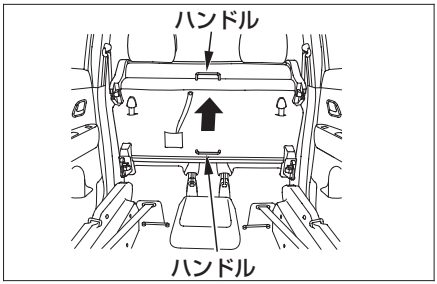
⑨シートが倒れないように手で支えながら、固定用ベルトのフックをヘッドレストピラーから外し、ポケットに収納します。



⑩手でシートを支えたまま、ロック解除レバーを降ろしてロックを解除します。



⑪2つのハンドルを持って、リヤシートを取り外します。



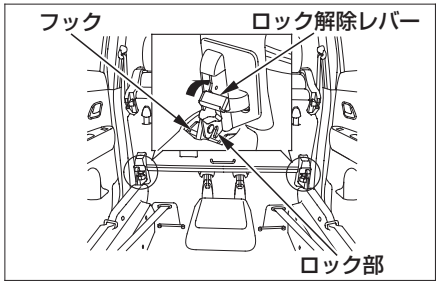
●リヤシートの取り付け

①フロントシートを前方へ動かします。

フロントシートの前後位置調節

→ZEST取扱説明書

②シート本体のロック部と床面のフックをかみ合わせ、ロック解除レバーを引き上げてシートを取り付けます。

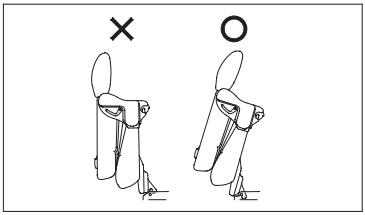


シートを軽くゆすって、確実に取り付けられているかを確認します。

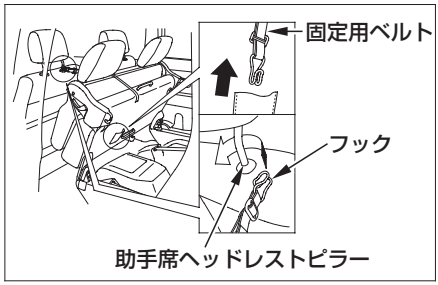
確実に取り付けられなかったときは、ロック解除レバーを引いてシートを外し、再度、取り付けなおしてください。

アドバイス

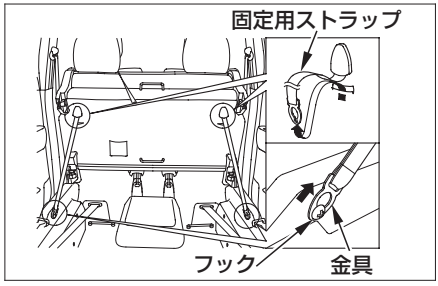
- シート本体のロック部と床面のフックをかみ合わせるときに、シートの角度によっては、ロック解除レバーが押し込めないことがあります。
  シートを正しい角度にしてレバーを操作してください。



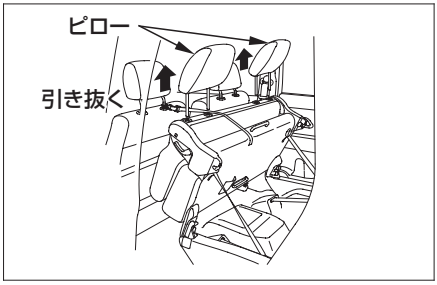
③シートが倒れないように手で支えながら、座面裏側の固定用ベルトを取り出し、助手席のヘッドレストピラーにフックを掛けます。



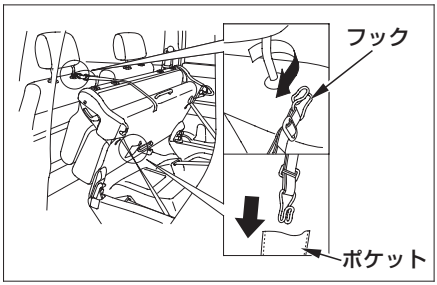
④シート座面裏側の左右 2 カ所のポケットに入っている固定用ストラップを取り出します。ストラップがねじれないようにし、金具をフックに掛けスライドさせて確実に固定します。



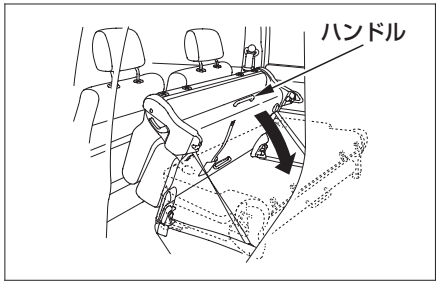
⑤ピローを取り外します。



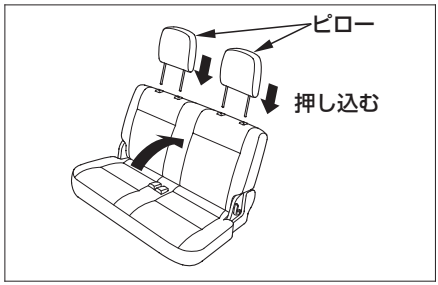
⑥シートが倒れないように手で支えながら、固定用ベルトのフックをヘッドレストピラーから外し、ポケットに収納します。



⑦ハンドルを握ってゆっくりとシートを降ろし、“カチッ”と音がするまで押さえて固定します。



⑧背もたれを起こして、ピローを取り付けます。



⚠注意

- リヤシートを持ち運ぶときは必ず二人以上で行ってください。
- リヤシートの取り付け、取り外し、持ち運びの際は手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 取り外したリヤシートを車いす乗車スペースにのせたまま走行しないでください。
  ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートが固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- シートを取り付けたときは、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 車検を受けるときは、リヤシートを取り付けてください。シートを取り付けていないと、車検証の記載内容の変更が必要になります。

二点式シートベルト

この車は、車いすに座っている人専用のELR付二点式シートベルトを装備しています。

ELR付二点式シートベルト:
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

シートベルト →ZEST取扱説明書

⚠警告

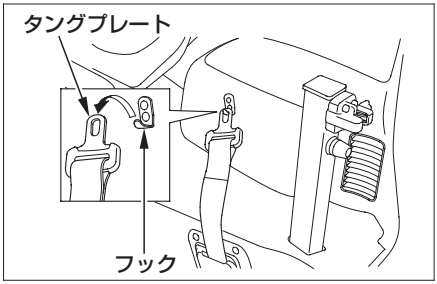
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。正しく着用していないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

知 識

- この二点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構は付いていません。

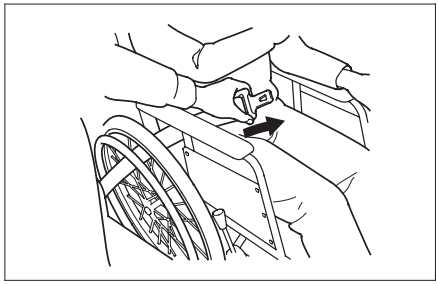
●着用のしかた

①タングプレートをフックより取り外します。

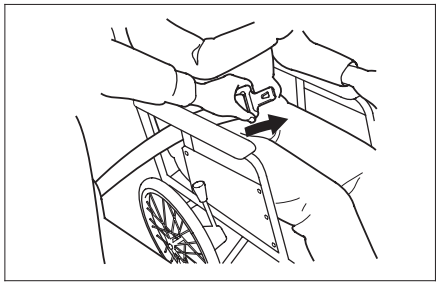


②タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通します。

自走式の車いす



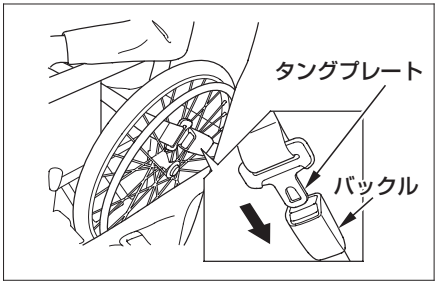
介護式の車いす



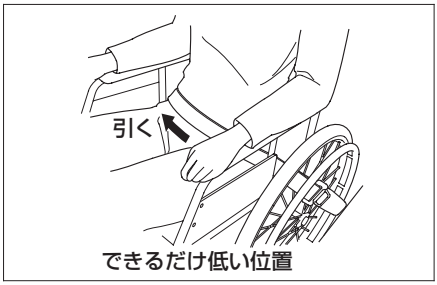
知 識

●車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。
図を参考にして、ベルトを通してください。

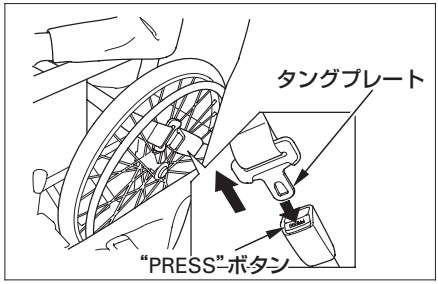
③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に“カチリ”と音がするまで差し込みます。



④ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように戻し方向へ引き、たるみがないように身体に密着させます。



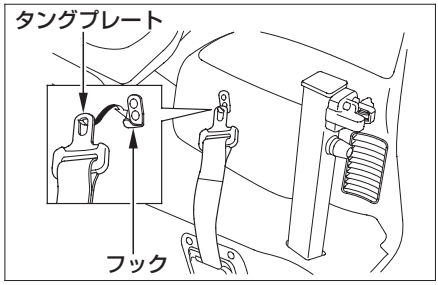
⑤外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、タングプレートを車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部を通しベルトを外します。



知 識

- ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

⑥ベルトを使用しないときは、タングプレートをフックに取り付けます。



車いすの乗せかた、降ろしかた

⚠警告

- 車いすは必ず車いす固定装置で固定してください。確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

- 車いすの乗降や固定操作をするときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーを[P]に入れ、必ずエンジンを止めてください。
  不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。
- 車いすの乗降や固定操作は介護する人が行ってください。
  車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うとスロープから落ちたり、体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。

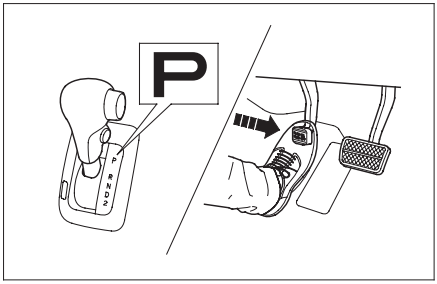
知 識

- 車いすの乗降や固定操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。
- スロープの耐荷重は200kgです。

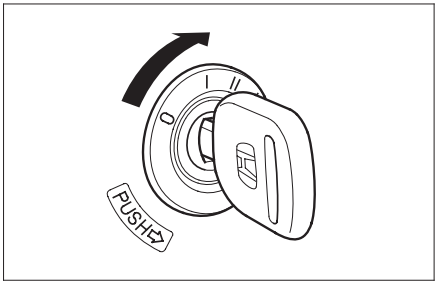
●車いすの乗せかた

1車いすを乗せる前に

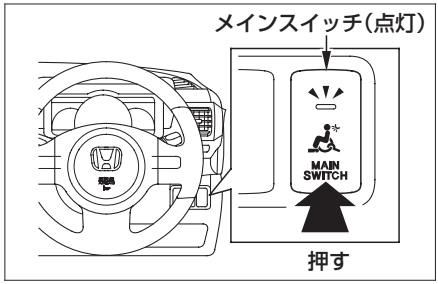
①パーキングブレーキをかけてセレクトレバーを🄿に入れます。



②エンジンスイッチを“Ⅰ”にします。



③運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“ON”（ランプ点灯）にします。



2スロープを降ろす

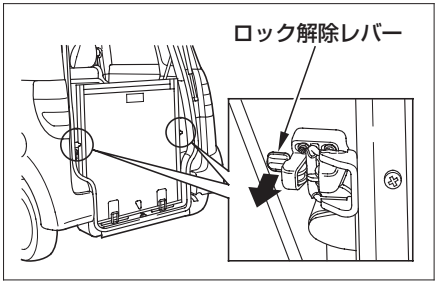
⚠注意

- スロープの操作は傾斜のない平らな所で行ってください。
- スロープを操作するときは手などをはさまないように十分注意してください。
- スロープは最後まで引き出した状態で使用してください。
- スロープに車いす以外の重い物を載せないでください。
  傷や破損などの原因となります。
- スロープを引き出した状態で車を走行させないでください。

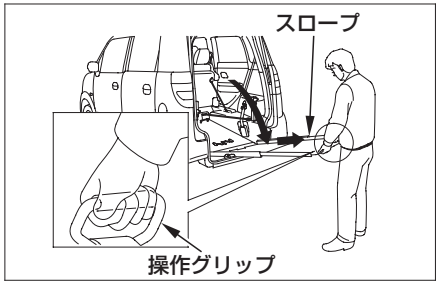
①バックドアを開けます。

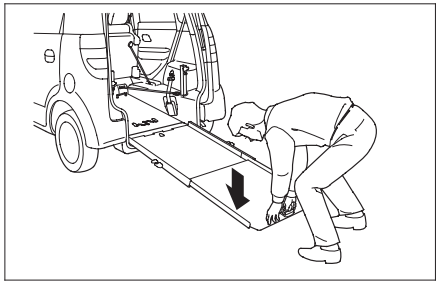
→8ページ

②左右のロック解除レバーを引いて、ロックを解除します。



③操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろします。





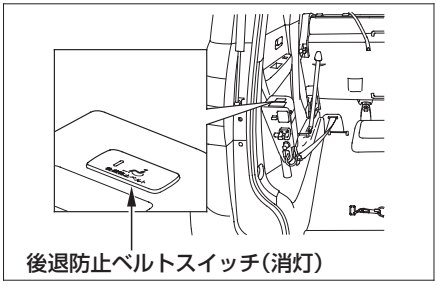
3車いすを乗せる

① **リヤシート装備車**

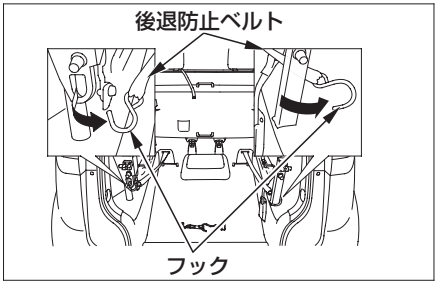
リヤシートをはね上げます。

リヤシートのはね上げかた　→12ページ

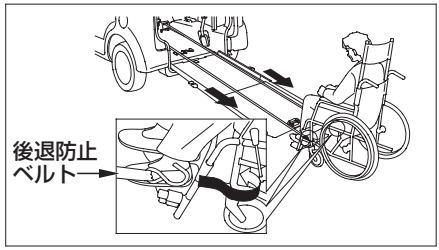
②後退防止ベルトスイッチが“解除”位置（ランプ消灯）であることを確認します。



③後退防止ベルトのフックをそれぞれの収納場所から外します。



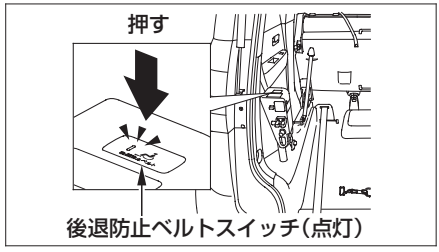
④後退防止ベルトを引き出して、ベルトがねじれないように車いすの前輪側の縦フレームに掛けます。



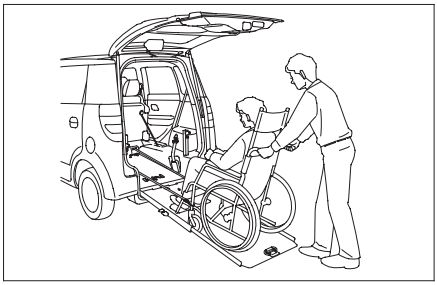
⚠注意

- 後退防止ベルトの操作は、後部座席付近に人がいないことを確認して行ってください。
- 後退防止ベルトを急に離すといきおいよく巻き取られますので、フック部を手に持ってゆっくりと巻き取らせてください。
- 後退防止ベルトを床面に放置しないでください。乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

⑤後退防止ベルトスイッチを押して“作動”位置（ランプ点灯）にします。



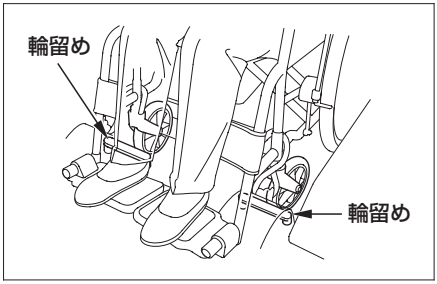
⑥介護する人が車いすをゆっくり押しながら、車内に乗せます。



知 識

●後退防止ベルトは、スロープの途中で介護する人が万一、手を離しても、車いすが後退しないようにロックがかかる機構です。

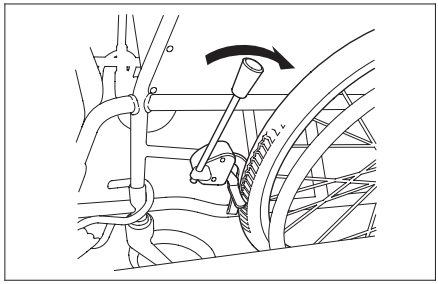
⑦車いすの前輪が輪留めにあたる位置までゆっくり前進させます。



⚠注意

●車いすを車の所定の位置に乗せるときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意してください。
また、介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意してください。

⑧車いすを前後に数回動かして、後退防止ベルトのたるみを取り、車いすのブレーキをかけ車輪をロックさせます。

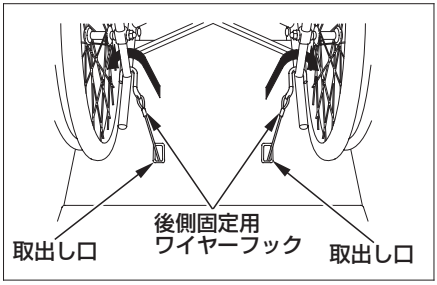


⚠警告

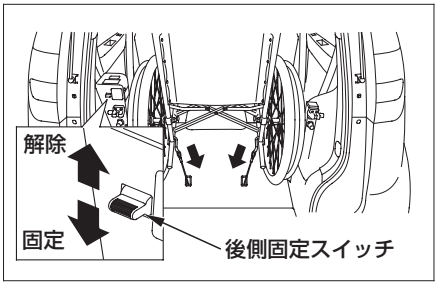
●車いす本体のブレーキを必ずかけてください。確実にかかっていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

4車いすを固定する

①後側固定用ワイヤーフックを取出し口から引き出して、車いす後側の縦フレームに掛けます。



②後側固定スイッチを“固定”側(下)へモーターの作動音が停止するまで押し続けます。



③車いすが確実に固定されていることを確認します。

④シートベルトを着用します。

二点式シートベルト　→23ページ

⚠注意

- 後退防止ベルトは車いすの前輪側の縦フレームに、後側固定用ワイヤーフックは車いす後側の縦フレームに掛け、車いすを前後方向に引くようにしてください。
  誤った掛けかたをすると、車いすを確実に固定できないおそれがあります。
- 後側固定スイッチを押すとき、ワイヤー部と車いすなどに手や足がはさまれないように十分注意してください。
- 走行する前に、車いすが確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

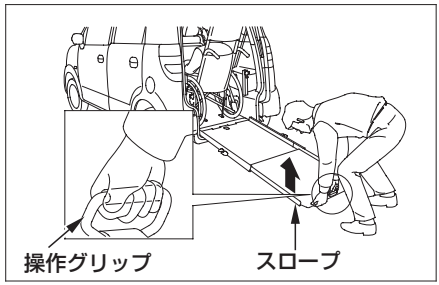
- 車いすを確実に固定しないで走行すると、ブレーキや衝突のときなどに車いすがぶつかったり、倒れたりして破損するおそれがあります。
- 後側固定用ワイヤーフックの取出し口に、飲み物などをこぼさないでください。ワイヤーが作動しなくなるおそれがあります。

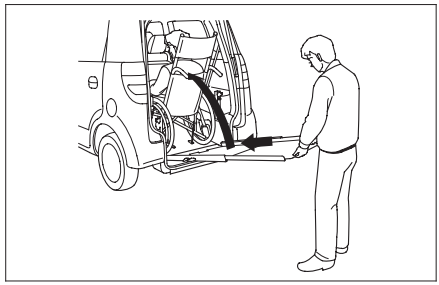
5スロープを格納する

⚠注意

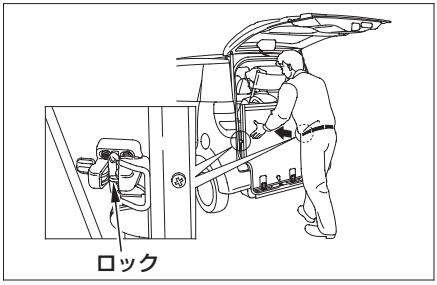
- スロープの操作は傾斜のない平らな所で行ってください。
- スロープを操作するときは手などをはさまないように十分注意してください。
- スロープは最後まで引き出した状態で使用してください。
- スロープに車いす以外の重い物を載せないでください。
  傷や破損などの原因となります。
- スロープを引き出した状態で車を走行させないでください。

①操作グリップをもって、スロープを持ち上げ、スライドさせて起こします。





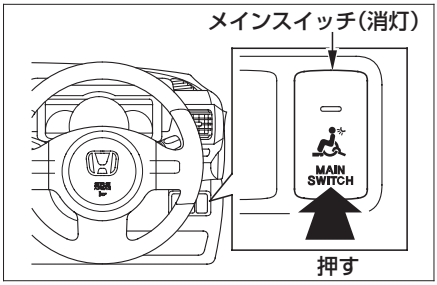
②スロープを“カチッ”と音がするまで押して左右のロックを確実にかけます。



③バックドアを閉めます。

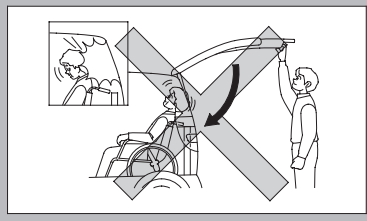
→8ページ

④運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にします。



⚠警告

- バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意してください。



⚠注意

- バックドアを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 車いす乗車スペース内には確実に固定された車いすに座った人以外の人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- 走行する前に、運転席横にあるメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にしてください。

●車いすの降ろしかた

1 車いすを降ろす前に

車いすを乗せる前に　→27ページ

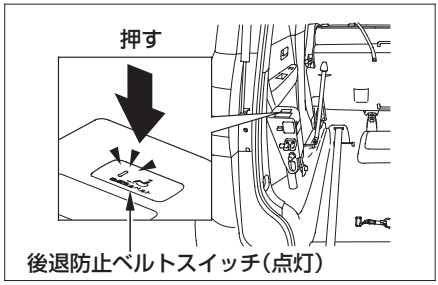
2 スロープを降ろす

バックドアを開けて、スロープを降ろします。

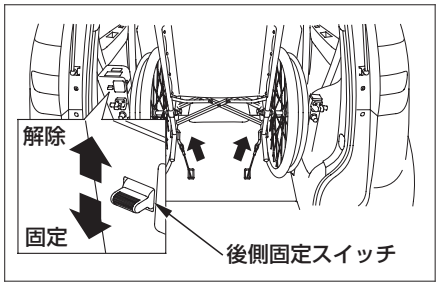
スロープを降ろす　→28ページ

3 車いすの固定を解除する

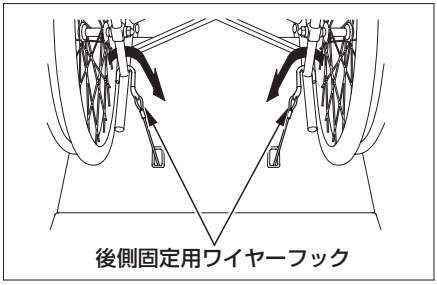
①後退防止ベルトスイッチを押して“作動”位置（ランプ点灯）にします。



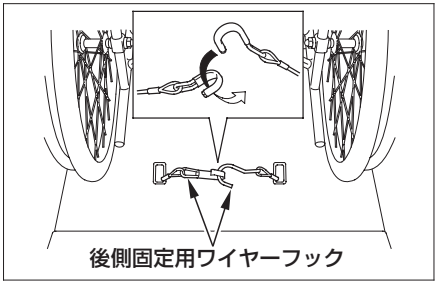
②後側固定スイッチを“解除”側（上）へモーターの作動音が停止するまで押し続けます。



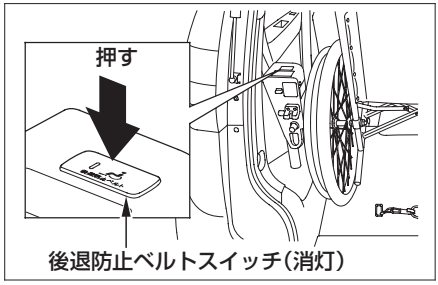
③後側固定用ワイヤーフックを車いすから取り外します。



④2つの後側固定用ワイヤーフックを掛け合わせて収納します。



⑤後退防止ベルトスイッチを押して“解除”位置(ランプ消灯)にします。



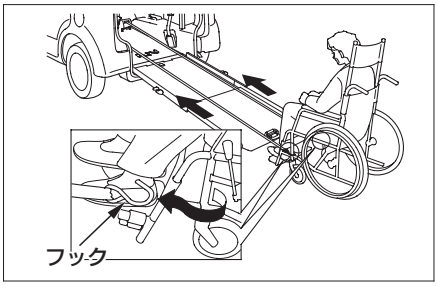
4 車いすを降ろす

①車いすの車輪のブレーキを解除し、介護する人が車いすを少し前に押した後に、そのままゆっくりと引きながら車外へ降ろします。

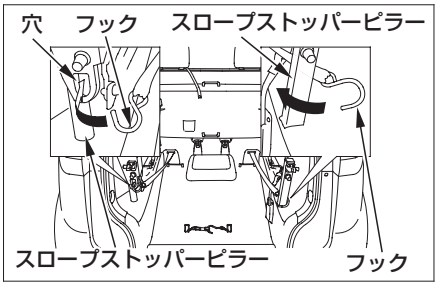
⚠注意

- 車いすを車から降ろすときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意してください。また、介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意してください。

②後退防止ベルトのフックを外し、ベルトを巻き取らせます。



③後退防止ベルトの右側のフックは右側のスロープストッパーピラーに掛けます。左側のフックは左側のスロープストッパーピラーにある穴に掛けます。



⚠注意

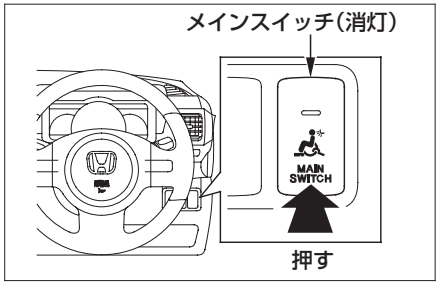
- 後退防止ベルトの操作は、後部座席付近に人がいないことを確認して行ってください。
- 後退防止ベルトを急に離すといきおいよく巻き取られますので、フック部を手に持ってゆっくりと巻き取らせてください。
- 後退防止ベルトを床面に放置しないでください。乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

5スロープを格納する

①スロープを格納して、バックドアを閉めます。

スロープを格納する　→33ページ

②運転席横にある車いす固定装置のメインスイッチを押して“OFF”（ランプ消灯）にします。



点検整備について

点検整備方式

点検整備項目		点検時期 日常点検	点検時期 12か月ごと	点検時期 24か月ごと	交換時期(年)	備考
車いす固定装置	作動のスムーズさ、異音	○	○	○		
	ワイヤーの切損、腐食	○		○		
	後退防止ベルト	○	○	○		ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときには交換

日常点検

車いす固定装置の日常点検は、使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

●作動のスムーズさ・異音の点検

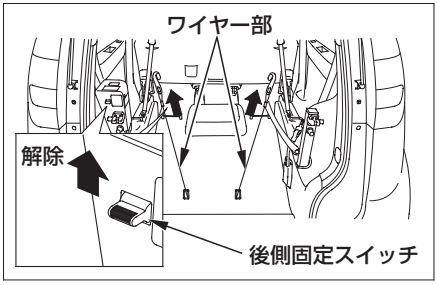
後側固定スイッチを押して装置がスムーズに作動するか、異音がないかを点検します。

●ワイヤーの点検

後側固定スイッチを“解除”側(上)へ、モーターの作動音が停止するまで押し続けます。

後側固定用ワイヤーフックを引き出して、ワイヤー部に切損、腐食がないか点検します。

ワイヤーにほつれ、すりきれなどがあるときは交換してください。

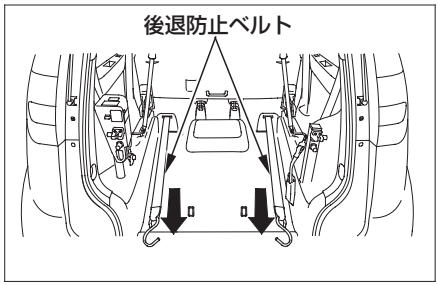


●後退防止ベルトの点検

後退防止ベルトを引き出して点検してください。

ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときは交換してください。

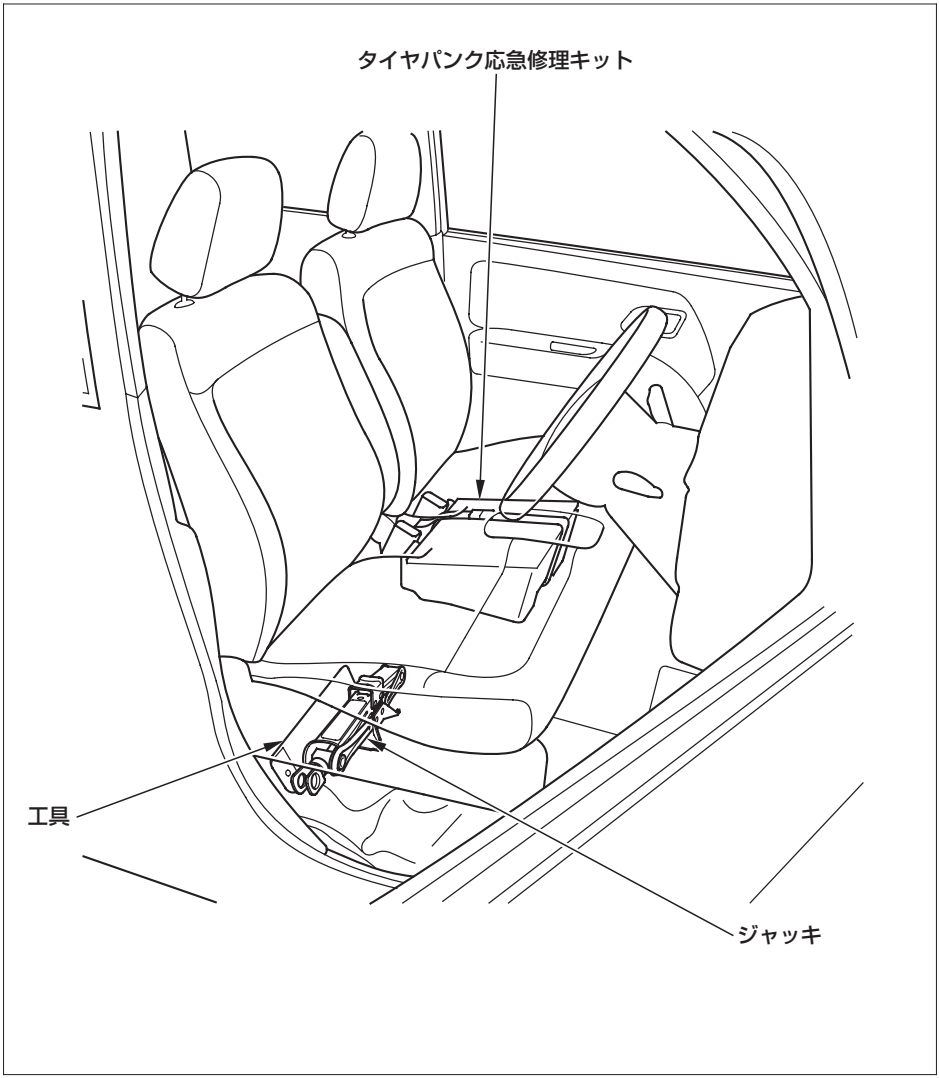
・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。



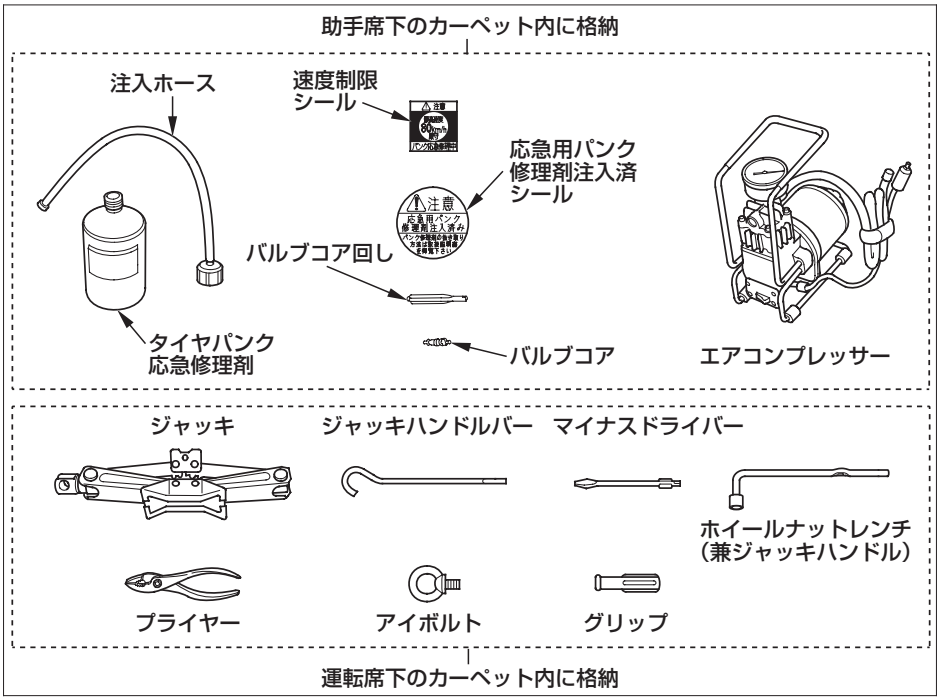
万一のとき

工具、タイヤパンク応急修理キット

●格納場所



工具の種類

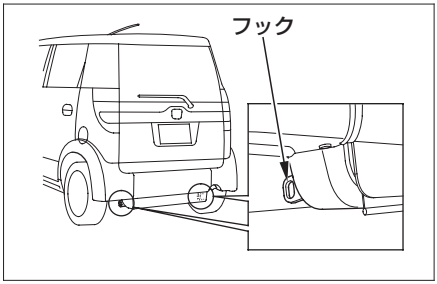


知 識

- 工具の種類、ジャッキの使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- ジャッキ、タイヤパンク応急修理キットなどの工具は走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

動けなくなったとき

脱輪などをして後方へ引き出す場合は、リヤバンパーの下のフックにロープをかけてください。



アドバイス

- 後方へ引き出すとき、ロープを引く方向によってはバンパーなどにあたり、破損するおそれがあります。
- ワイヤーロープや金属チェーンなどを使って後方へ引き出すときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのまま引き出すと、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

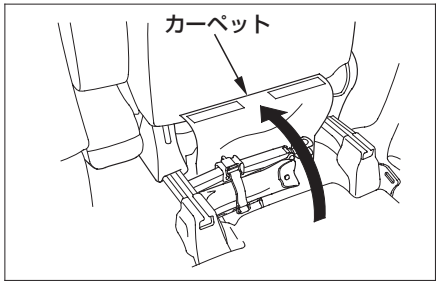
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

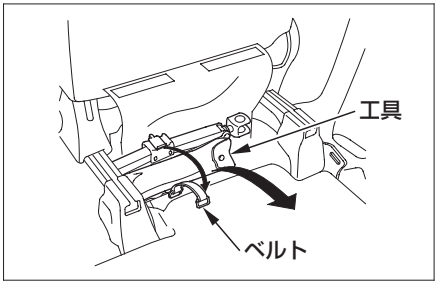
①運転席シートを前方いっぱいに動かし、カーペットをめくります。

フロントシートの前後位置調節

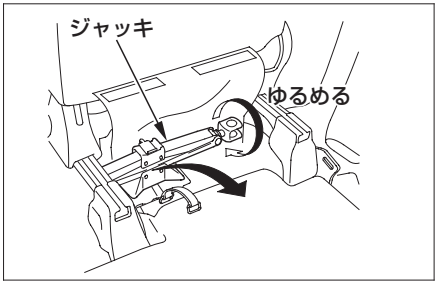
→ZEST取扱説明書



②ベルトを外し、工具を取り出します。



③ジャッキをゆるめて少し持ち上げるようにして手前に引きます。



知 識

- ジャッキ使用後は、走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。

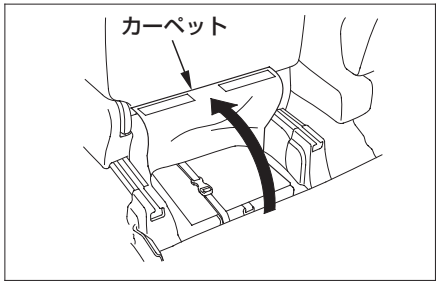
タイヤパンク応急修理キット

●取り出しかた

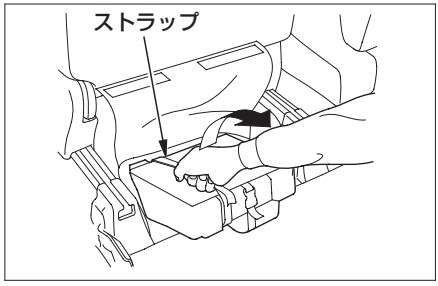
①助手席シートを前方いっぱいに動かし、カーペットをめくります。

フロントシートの前後位置調節

→ZEST取扱説明書



②ストラップを持ち、手前に引き出します。



●使いかた

本キットはタイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを応急修理するものです。

⚠注意

- 応急修理剤を飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤がもし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤に子どもが誤って手を触れないようご注意ください。
- 応急修理剤で応急修理を行うときは、車を地面が平らで安全な場所に停めてください。

知 識

- 応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがあります。

アドバイス

- 以下のような場合には、応急修理剤を使って修理することができません。

  Honda販売店やJAFなどのロードサービスに連絡してください。

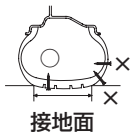
  ・応急修理剤の有効期限が切れているとき。

（有効期限はボトルのラベルに記載されています）

・タイヤが2本以上パンクしているとき。

・約4 mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき。

・接地部以外が損傷を受け、パンクしたとき。



釘やネジなど	直径4 mm以下 ○
	直径4 mmより大きい ×

・ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき。

・タイヤがホイールから外れているとき。

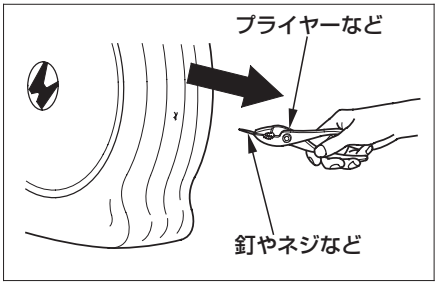
・ホイールが破損しているとき。

①車を安全な場所に停め、工具類、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

②パンクした箇所、原因を調べます。釘やネジが刺さっているのは一ヵ所とは限らないため、一度チェックした後、車両を少し動かしタイヤの全周を確実に調べてください。

応急修理できないとき　→43ページ

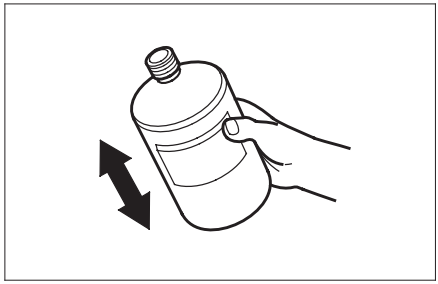
③タイヤに刺さった釘やネジなどをプライヤーなどで抜き取ります。



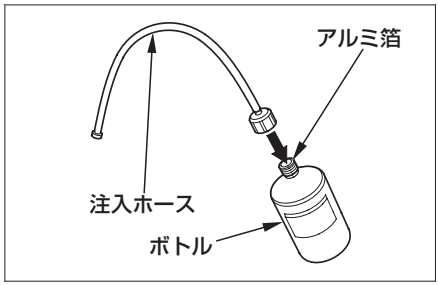
⚠注意

- 釘やネジが刺さったままで走行すると、タイヤの空気が漏れたり、タイヤの内部が損傷するおそれがあります。
- パンクした箇所、原因が見つからないときや、釘やネジを抜くことができないときは、Honda販売店やJAFなどのロードサービスに連絡してください。

④応急修理剤のボトルをよく振ります。



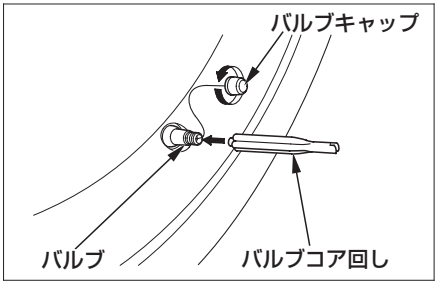
⑤応急修理剤のアルミ箔を外さずに注入ホースを応急修理剤のボトルにねじ込みます。注入ホースをねじ込むと、アルミ箔が破れます。



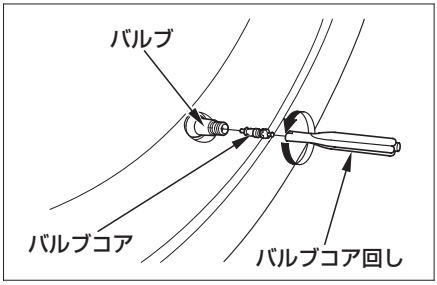
⚠注意

- 注入ホースをねじ込んだ後、応急修理剤のボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び出すおそれがあります。

⑥バルブからバルブキャップを外し、コア回しの後ろを押しあてて、タイヤの空気を完全に抜きます。



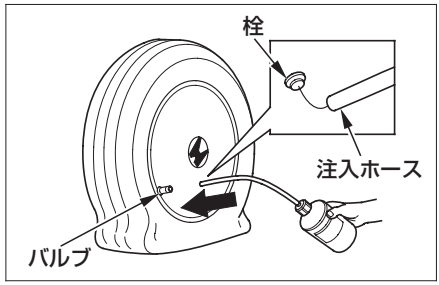
⑦コア回しでバルブコアを左に回して外します。
外したバルブコアは、汚れないようにきれいな所に保管します。



⚠注意

- バルブコアを外すときにタイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し傷害を受けるおそれがあります。

⑧注入ホース先端の栓を外して、バルブに差し込みます。

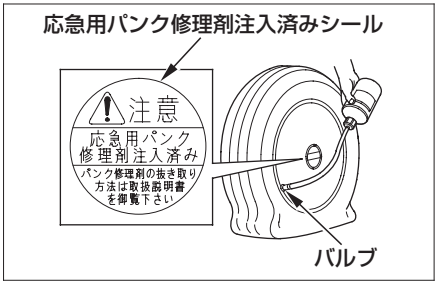


⑨応急修理剤のボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを何回も圧迫し、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入します。
全て注入したら、注入ホースをバルブから引き抜き、バルブコアをバルブに取り付け、コア回しでしっかりとねじ込んでください。

知 識

- コア回しでバルブコアをねじ込むときは、手で回してください。
工具などを使って回すとコア回しを破損するおそれがあります。

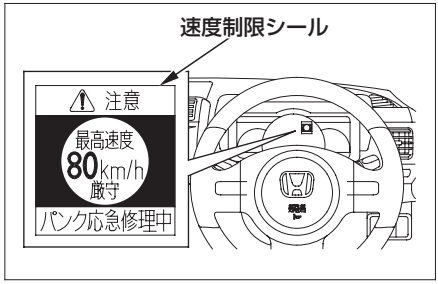
⑩応急修理剤を注入したタイヤのホイールの平坦なところに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼ります。



知 識

- 注入が完了した空ボトルは、タイヤの修理・交換時に、使用済応急修理剤の回収に使用しますので捨てずにHonda販売店か修理業者までお持ちください。

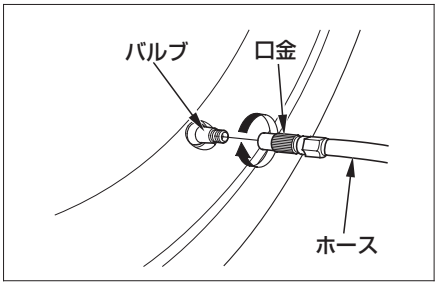
⑪速度制限シールを運転者のよく見える位置に貼ります。



⚠注意

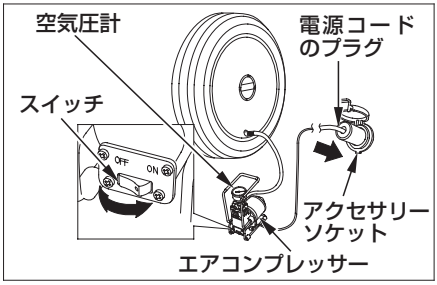
- ハンドルのパッドにシールを貼らないでください。SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
  また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

⑫バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付けます。



⑬空気圧計を上にして、エアコンプレッサーを置きます。

⑭エアコンプレッサーの電源コードのプラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチを“I”にします。



⑮エアコンプレッサーのスイッチを“ON”にしてタイヤを指定の空気圧まで昇圧します。エアコンプレッサーに付属の空気圧計を使用して、空気圧を点検、調整します。
空気を入れ過ぎたときは、ホースの口金を緩めて空気を抜きます。

指定空気圧　→55ページ

⑯エアコンプレッサーのスイッチを“OFF”にしてから電源コードプラグをアクセサリーソケットから抜きます。

知 識

- 備え付けのエアコンプレッサーは乗用車タイプの空気充填用です。
- エアコンプレッサーの電源は、自動車用12V専用です。他の電源は接続しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上連続して使用しないでください。
  再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。
- 10分以内に指定の空気圧にならないときは、応急修理剤を使って応急修理することができません。
  Honda販売店やJAFなどのロードサービスに連絡してください。
- 本応急修理キットは、タイヤに修理剤および空気を注入するだけではパンク穴はふさがりません。応急修理が完了するまでは、パンク穴より空気が漏れます。

⑰指定の空気圧まで昇圧できたら、速やかに、エアコンプレッサー、ボトル等を車に搭載して直ちに走行します。
走行は法定速度を守って、80km/h以下の速度で注意深く運転してください。

⚠注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止してHonda販売店かJAFなどのロードサービスに連絡してください。
  応急修理完了までに空気圧が低下して安定性を損うおそれがあります。

知 識

- 80km/hを超えて走行すると、車体が振動することがあります。

⑱10分間または 5 km程度走行した後、エアコンプレッサーに付属の空気圧計でタイヤの空気圧を点検します。

⚠注意

- 空気圧が最小空気圧より低くなっているときは、応急修理剤での応急修理はできません。
  運転を中止してHonda販売店か、JAFなどのロードサービスに連絡してください。
  最小空気圧： 130kPa(1.3kgf/cm²)

⑲タイヤの空気圧が指定の空気圧より低下していたら、もう一度指定の空気圧まで昇圧し、法定速度を守って80km/h以下の速度で注意深く運転します。
10分もしくは 5 km程度走行した後にタイヤの空気圧を点検します。
指定空気圧 →55ページ

⑳空気圧の低下が認められなくなったら、応急修理完了です。
すみやかにHonda販売店または専門修理工場まで慎重に運転し、タイヤの修理、交換を行ってください。

知 識

- このとき、タイヤの空気圧が指定空気圧より低下していたら運転を中止してHonda販売店かJAFなどのロードサービスに連絡してください。
- 応急修理剤の空ボトルは、使用済応急修理剤の回収に使用しますので、Honda販売店か修理業者までお持ちください。

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理のとき、パンク穴を発見できず恒久修理できないことがあります。
  そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧を点検、調整してください。
  何度も空気圧の低下が認められるときはHonda販売店か専門の修理工場で点検してください。

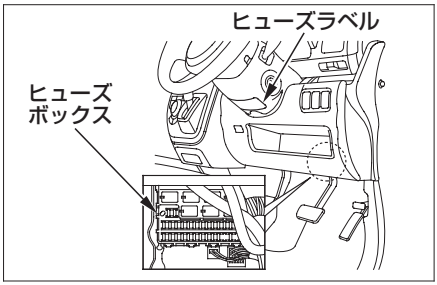
バックドアランプが点灯しないとき、後側固定用ワイヤーフック、後退防止ベルトが作動しないとき

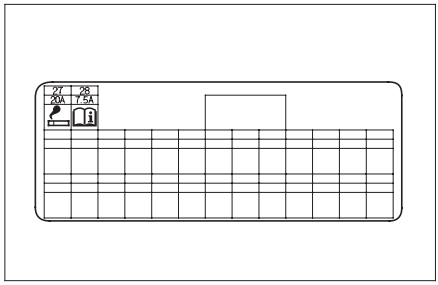
バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

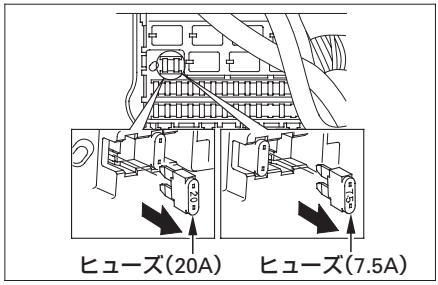
①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズの位置



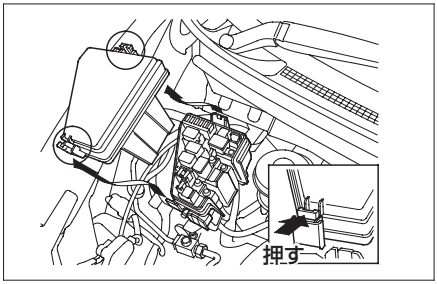


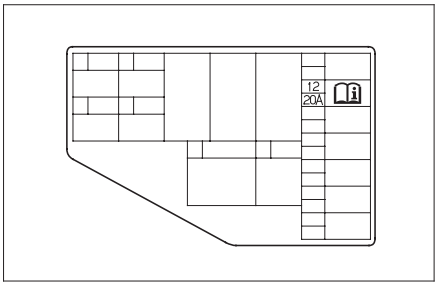


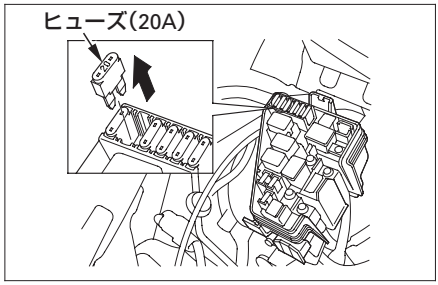
・ヒューズの装備と容量

	表示	装　　備	容量
27		アクセサリーソケット	20A
28		後側固定用 ワイヤーフック／ 後退防止ベルト／ バックドアランプ	7.5A

エンジンルーム内のヒューズの位置



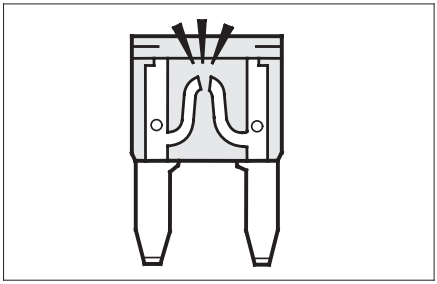




・ヒューズの装備と容量

	表示	装　　備	容量
12		後側固定用 ワイヤーフック	20A

ヒューズが切れているとき



ヒューズラベルの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

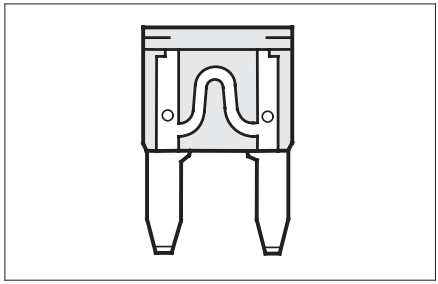
アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



ヒューズが切れていないのにバックドアランプが点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

電球(バルブ)の交換　→52ページ

知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

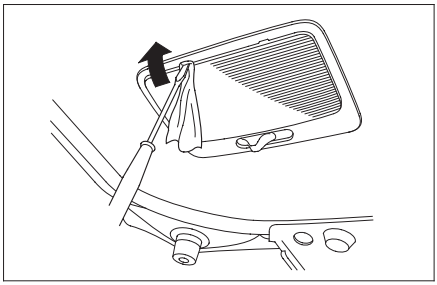
ヒューズが切れていないのに、後側固定用ワイヤーフック、後退防止ベルトが作動しないときは、装置の故障が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

車いすの固定が解除できないとき
→52ページ

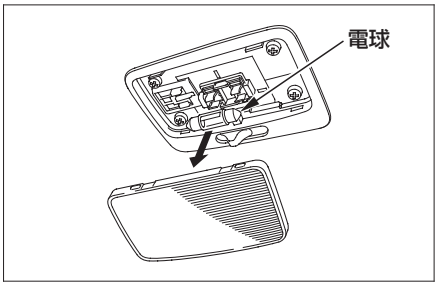
●電球(バルブ)の交換

バックドアランプ

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。



知 識

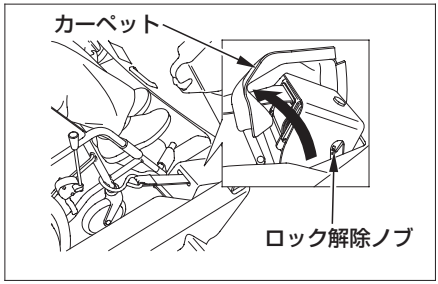
- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→55ページ

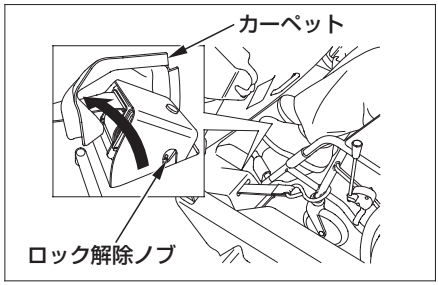
●車いすの固定が解除できないとき

装置が故障した場合、次の方法で車いすの固定を解除してください。

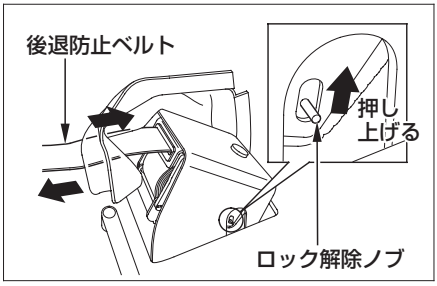
①運転席側の後席ドアを開けて、カーペットをめくりロック解除ノブの位置を確認します。



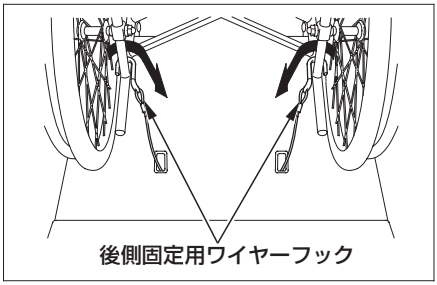
②助手席側の後席ドアを開けて、カーペットをめくりロック解除ノブの位置を確認します。



③ロック解除ノブを上に押し上げたまま、いったん後退防止ベルトを少し押し込んだ後にベルトを引き出します。
左右同じようにして、ベルトを引き出し後退防止ベルトのフックを外します。



④車いすを少し後ろに動かして、固定用ワイヤーフックを外します。



⑤なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

⚠注意

- 装置が故障したときは、車いすでの乗車はしないでください。
車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

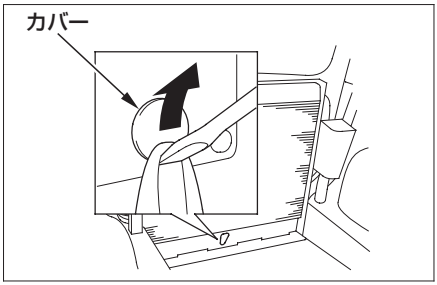
知 識

- 後退防止ベルトの張りが強く、ロック解除ノブを押し込むことができない場合は、車いすを後方へ引いてベルトにたるみを作ってから同様の操作を行ってください。

バックドアの解錠ができないとき

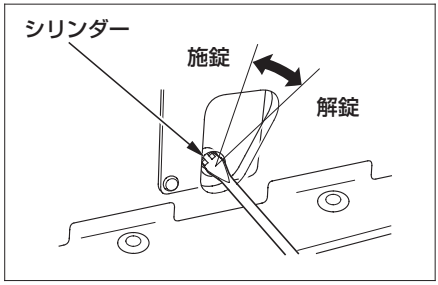
万一、バックドアが解錠できなくなった場合は、応急処置としてバックドア解錠シリンダーにキーなどを差し込み、矢印の方向に回して解錠してください。

①スロープ下部にある穴からドライバーを差し込んで、バックドア内側にあるカバーを外します。



②シリンダーにドライバーなどを差し込み右に回し、バックドアを解錠します。

バックドアの開閉　→8ページ



バックドア解錠シリンダーを左に回すと施錠します。

知　識

- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

サービスデータ

サービスデータ

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="3">サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ</th></tr>
<tr><td>電球(バルブ)</td><td>W(ワット)数</td><td colspan="3">バックドアランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12V-8W</td></tr>
<tr><td>燃　　料</td><td>タンク容量</td><td colspan="3">30ℓ</td></tr>
<tr><td>スロープ</td><td>耐荷重</td><td colspan="3">200kg</td></tr>
<tr><td rowspan="5">乗　車　定　員　(人)</td><td rowspan="3">リヤシート装備車</td><td colspan="2">車いすご利用の方が乗車される場合</td><td>3
(車いすご利用の方も含む)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">車いすご利用の方が乗車されない場合</td><td>リヤシート非使用時</td><td>2</td></tr>
<tr><td>リヤシート使用時</td><td>4</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リヤシート非装備車</td><td colspan="2">車いすご利用の方が乗車される場合</td><td>3
(車いすご利用の方も含む)</td></tr>
<tr><td colspan="2">車いすご利用の方が乗車されない場合</td><td>2</td></tr>
</table>

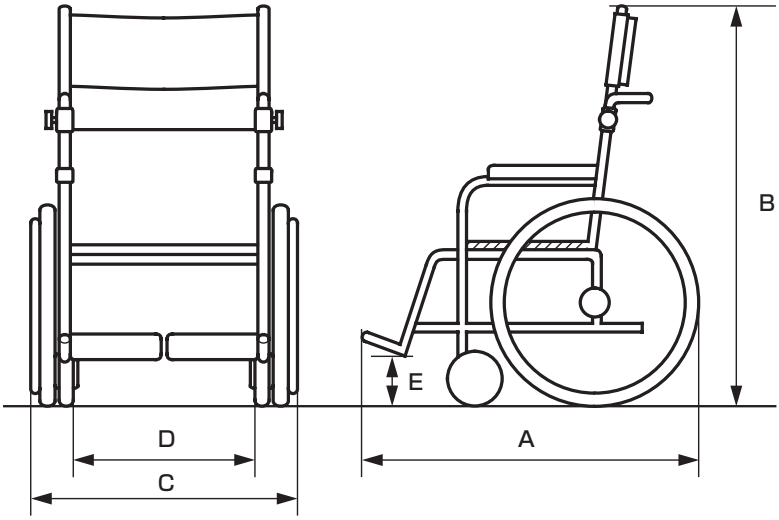
<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="2">タイヤ空気圧
kPa(kgf/cm²)</th><th colspan="2">リムサイズ※</th></tr>
<tr><th>タイヤサイズ</th><th></th><th>前輪</th><th>後輪</th><th>スチールホイール</th><th>アルミホイール</th></tr>
<tr><td>標準タイヤ</td><td>155/65R13 73S</td><td>220(2.2)</td><td>200(2.0)</td><td>13×4.00B</td><td></td></tr>
</table>

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
・14インチのサイズのタイヤを装着しないでください。
タイヤと干渉するおそれがあります。

乗車可能な車いすのサイズ

乗車可能な車いすのサイズは下表のようになっていますので、車いすを購入されるときに、あらかじめ確認してください。なお、下記条件を満たしている場合でも形状によっては乗車のできない車いすがあります。

項目 ＼ タイプ	自走式、介護式
A：全　　長　（mm）	1,060以下
B：全　　高　（mm）	1,230以下
C：全　　幅　（mm）	660以下
D：前輪内側幅　（mm）	370以上
E：フットプレート高さ　（mm）	100以上



HONDA

The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

30SLZ600
00X30-SLZ-6001

©2006　本田技研工業株式会社